タイトル

名前（静岡大学大学教育センター）

**はじめに**

本稿の目的は… 神職の学問や教養の具体的な内容について、蔵書印から書籍蒐集をとりまく中村家のネットワークについて推測することができる。

事例として、遠江国郡（現静岡県浜松市西区雄踏町宇布見）の神職中村家をとりあげる。主な史料は… 中村家に養子入りした年である[[1]](#endnote-1)7)。別稿において、中村家の蔵書形成について東海の養子入りに焦点をあてて検討するため、本稿でも明治8年で区切った。

**1 中村家の由緒と特徴**

（1）敷智郡雄踏村宇布見について

　中村家の所在地である… その内訳は、浜松領（井上河内守所領）400石、幕府直轄（中泉代官所宰領）900石余り、吉田領（現豊橋、松平伊豆守）160石となっていた。

　明治以降になると… 明治8年（1875）、第11大区18小区に変更し、区長及び副戸長をおいて村政を執った。明治9年（1876）になり、浜松県は、静岡県の中に統合された[[2]](#endnote-2)9)。

（2）中村家の特徴

　「中村家由緒書」[[3]](#endnote-3)10)や「遠江国雄踏宇布見中村家」[[4]](#endnote-4)11)に記された当主の履歴から、中村家の特徴をまとめたい[[5]](#endnote-5)12)。図1は、中村家の略系図である。「家」[[6]](#endnote-6)13)にとって特徴的な履歴をもっていたり、蔵書形成に関わったりしている当主を中心に作成した。

　中村家の初代は、三河守（源頼朝の弟）の息子で、大和国（現奈良県）に居住した。7代正清は、大和国中村郷（現奈良県北葛城郡）に住… 米神社（息神社）とは、宇布見にある神社であり、中村家の屋敷近くにある。17代光貞も米神社の嗣官を襲職し、今川家に仕官し、「領主今切船支配」についている。

　近世において… 1泊したといわれている[[7]](#endnote-7)14)。…結城秀康の誕生や胞衣塚については、さまざまな由緒書に記されている。その中の1つを以下に記す。

……十八世正吉徳川家康公本国打入ノ先導ト為リ功アリ佩刀賜銘日天賜海別御代官兼軍船奉行トナル、「天正元」公ノ側室永見氏娠メル公密ニ之ヲ正吉ニ託「シ本多重次護ス」セシム、既ニシテ○年二月八日分娩男ヲ産ム」分娩男ヲ生ム、是ヲ越前中納言秀康卿ト為ス、正吉之ヲ鞠「養」育スルコト三歳、公其忠恪ヲ嘉ミシ葵紋附小柄笄及時服ヲ賜テ之ヲ賞ス、越前作州二侯倶ニ卿ニ出ルヲ以テ~~作州侯乃チ~~正吉子孫「正」ヲ禄シ世々津山藩籍ニ列シ仍ホ本土ニ在テ卿ノ産土「氏神」天神社「宮祠官」「兼初テ」及産所胞衣塚ヲ護~~シ兼テ~~「ス」~~祠官タラシム~~、越前侯モ亦世禄百石ヲ給ス、明治〔空欄〕年華族禄制改正ニヨリ世襲ノ家禄廃セラル、爾来~~産土~~「松平家氏神」天神社及産所胞衣塚保護科トシテ~~松平~~両家ヨリ金弊若干年々贈与「ス」~~有ス~~、……

（「中村東海履歴」[[8]](#endnote-8)17））

中村家は… 美作津山藩主松平三河守には面謁を賜り[[9]](#endnote-9)20)、士分格であった。以上、近世において中村家は米神社の嗣官を襲職し、庄屋を勤め、士分格であるという特徴をもっていた。

**2　蔵書形成に関わった中村家の家人**

　ここでは… 以上の観点から、近世から明治8年にかけて中村家の蔵書形成の中心であったと推測できるのは、27代亀年、28代、29代東海である。

**註**

1. … [↑](#endnote-ref-1)
2. 9) 古橋一男、嶋竹秋、新村嘉十編『雄踏村誌』雄踏町誌郷土資料部、2000年、31~32頁。 [↑](#endnote-ref-2)
3. 10) 中村家文書「中村家由緒書」（資料番号715-11）。本稿で用いる「中村家文書」は全て、浜松市博物館寄託の史料である。 [↑](#endnote-ref-3)
4. 11) 中村家文書「遠江国雄踏村宇布見中村家」（資料番号1478） [↑](#endnote-ref-4)
5. 12) 由緒書の性格として、家の権威を高めるために史実とは異なる説明が述べられることがある。そのため、他の史料と合わせて由緒書の内容の真偽を確認する必要があるが、現段階において由緒書に補足できるものをみつけられていないため、由緒書を参照する。 [↑](#endnote-ref-5)
6. 13) 近世は、「家」制度の社会である。以降、「家」と表記する場合、「固有の家名、家産、家業をもつもので、地域共同体と結びついて存在する」（前掲註1「江戸期上層庶民の家の蔵書に関する研究－学習環境の視点から－」1頁）という観念をさすものとする。近世において、家人は世代を超えて「家」が永続することを願っていた。 [↑](#endnote-ref-6)
7. 14) 「中村家由緒書」（前掲註10）の18代正吉の履歴に「永禄十一年三月東照宮三州ヨリ御忍ニテ正吉宅被成御一泊、翌日正吉故小藪村迄御船ニテ濱松城地御案内仕候」とある。 [↑](#endnote-ref-7)
8. [↑](#endnote-ref-8)
9. [↑](#endnote-ref-9)